

問1 肺に送られて二酸化炭素を出し、酸素をとり入れて、ふたたび心臓にもどるものごを何とよびますか。

問2 小腸という器官では、おもにどのようなはたらきが行われていますか。

問3 ヒトが体の中から外へ吐き出す空気はきだすのことで、吸う息に比べて酸素が減り、二酸化炭素や水（水蒸気）が多くふくまれているものを何といいますか。

問4 全身にはりめぐらされた血管の中を流れ、酸素や二酸化炭素、養分などを運ぶはたらきをしている液体は何ですか。

問5 食べ物ふくに含まれる水分が、小腸や大腸で体の中に取り込まれるこことを何といいますか。

問6 小腸で吸収された食べ物の養分は、何に入って全身に運ばれますか。

問7 タンパク質が体の中で使われるときにできる有毒なアンモニアを、かん臓が無毒な物質につくり変えたものを何といいますか。

問8 血液が心臓から送り出されて全身をめぐり、必要なものを運んで再び心臓へもどる一連の流れを何といいますか。

問9 かん臓が、体の中でできたアンモニアをによろ素につくり変えるのはなぜですか。

問10 かん臓でつくりしぼうられ、脂肪の消化を助けるはたらきをもつ消化液は何ですか。

問11 運動をしたときに、心臓が速く動くことによって、ふだんよりも数が増えるものはどれですか。

問12 肺に送られた血液が、二酸化炭素を出して酸素をとり入れたあと、この血液はどこへ向かいますか。

問13 心臓から送り出された血液が、全身に運ばれたときに、からだの各部分にわたすものは何ですか。

問14 ヒトが呼吸をするときに、まわりから体の中すいこむに吸い込む空気のことを何といいますか。

問15 運動をしたときに、ふだんよりも脈はく数が増えるのはなぜですか。

問16 血液から不要物をこしとるだけでなく、必要な物質を血液中にもどしたり、血液中の塩分や水分の量を調節して一定に保ったりするじん臓のはたらきを何といいますか。

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 心臓にもどった血液	肺で二酸化炭素を出して酸素をとり入れた血液は、ふたたび心臓にもどります。
問2	答え 消化された養分を吸収する。	小腸は、消化された養分をおもに吸収する役割をもっています。
問3	答え はいた息	ヒトが体の中から吐き出す空気のことを「はいた息」といいます。吸う息に比べて、酸素が減って二酸化炭素や水蒸気が増えているのが特徴です。
問4	答え 血液	全身の血管の中を流れて、酸素や二酸化炭素、養分などを運ぶ液体は血液です。
問5	答え 水分の吸収	食べ物に含まれる水分が、小腸や大腸から体の中に取り込まれることを「水分の吸収」といいます。
問6	答え 血液	小腸で吸収された養分は、血液に入って全身に運ばれます。
問7	答え よう素	タンパク質が使われたときにできる有毒なアンモニアを、かん臓が無毒に変えた物質をよう素といいます。
問8	答え 血液の循環	血液が心臓から送り出されて全身をめぐり、再び心臓へ戻る流れを「血液の循環」といいます。
問9	答え 有毒なアンモニアを無毒な物質にするため。	アンモニアは体にとって有害な物質であるため、かん臓で無毒なよう素という物質につくり変えられます。
問10	答え たんじゅう	かん臓でつくられ、脂肪の消化を助ける消化液はたんじゅうです。
問11	答え 運動時の脈はく数	運動をすると心臓が速く動くため、手首などで測る脈はくの数かふだんよりも増えます。
問12	答え 心臓	肺で二酸化炭素を出し、酸素をとり入れた血液は、ふたたび心臓にもどります。
問13	答え 酸素や養分	心臓から送り出された血液は、全身のからだの各部分に酸素や養分を届ける役割を持っています。
問14	答え 吸う息	ヒトが呼吸で体の中に取り入れるまわりの空気のことを「吸う息」といいます。
問15	答え 全身に酸素と養分をたくさん送るため	運動で使われた分の酸素と養分を全身に届けるために、心臓が速く動いて脈はく数が増えます。
問16	答え じん臓の調節機能	じん臓の調節機能は、体に必要な物質を血液中にもどし、水分や塩分の量をちょうどよい状態に保つ大切なはたらきです。